



# レポートの書き方講習会 Step2

2018年5月21日  
教育センター 桐山 聡  
附属図書館 学術情報係

# なんのためにレポートを書くのか？

レポートにはかならず「目標」がある

例1: 理工系の実験レポートならば「理解」「考える力をつける」

例2: よい成績を得たい

一般化すると,

レポートは[ ]ために書く.

「わかりやすく書く」ことは、「目標」を満たすための「手段」.

# 「読む」と「書く」との間を埋めるためには？

- 読書と文章執筆の間にはギャップが存在する。  
(読書好きでも、いきなりは書けない)
- 文章構成の力を向上させるためには、階層的構造化に慣れるための段階的な訓練が必要

演習1： 文章の良し悪しの比較

演習2： 文章の要約. 引用ルールに注意！

# 演習1：文章の良し悪しの比較（15分間）

配布資料 [別紙1] レポートA, レポートB参照

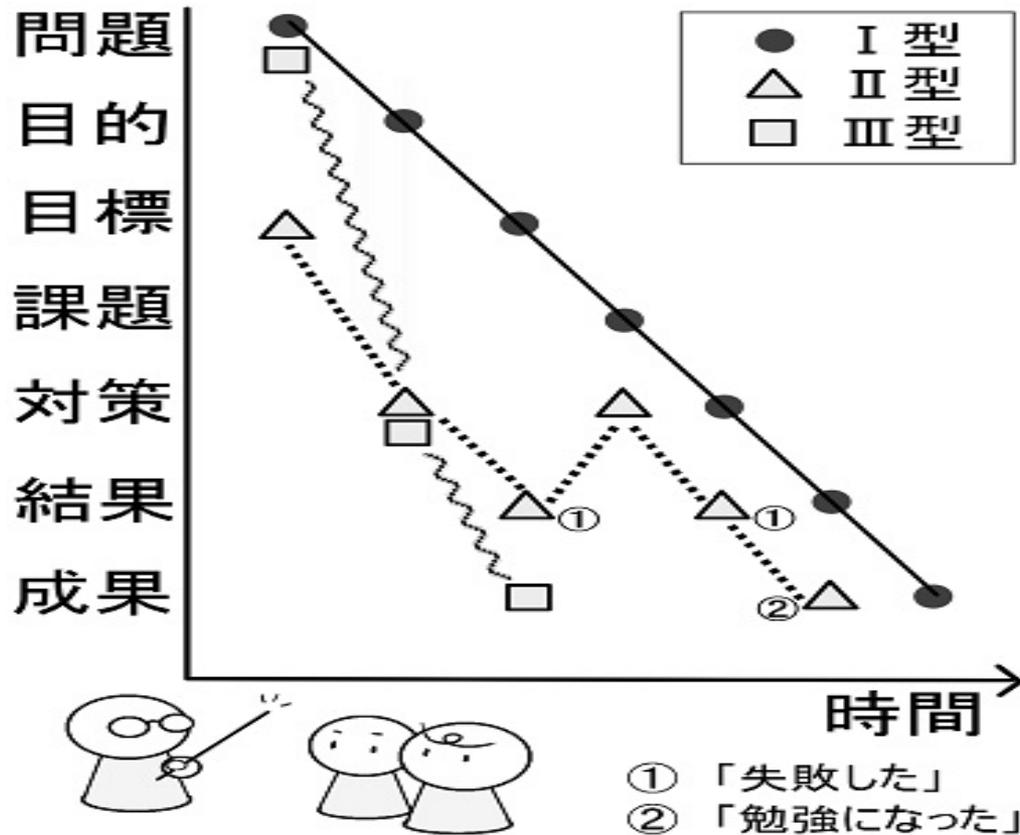
演習のルール：

- ・ 2つのレポートA、Bを読み比べて「良い」と判断した方を選ぶ.
- ・ 「良い」と判断した理由を2つ以上書きだす.



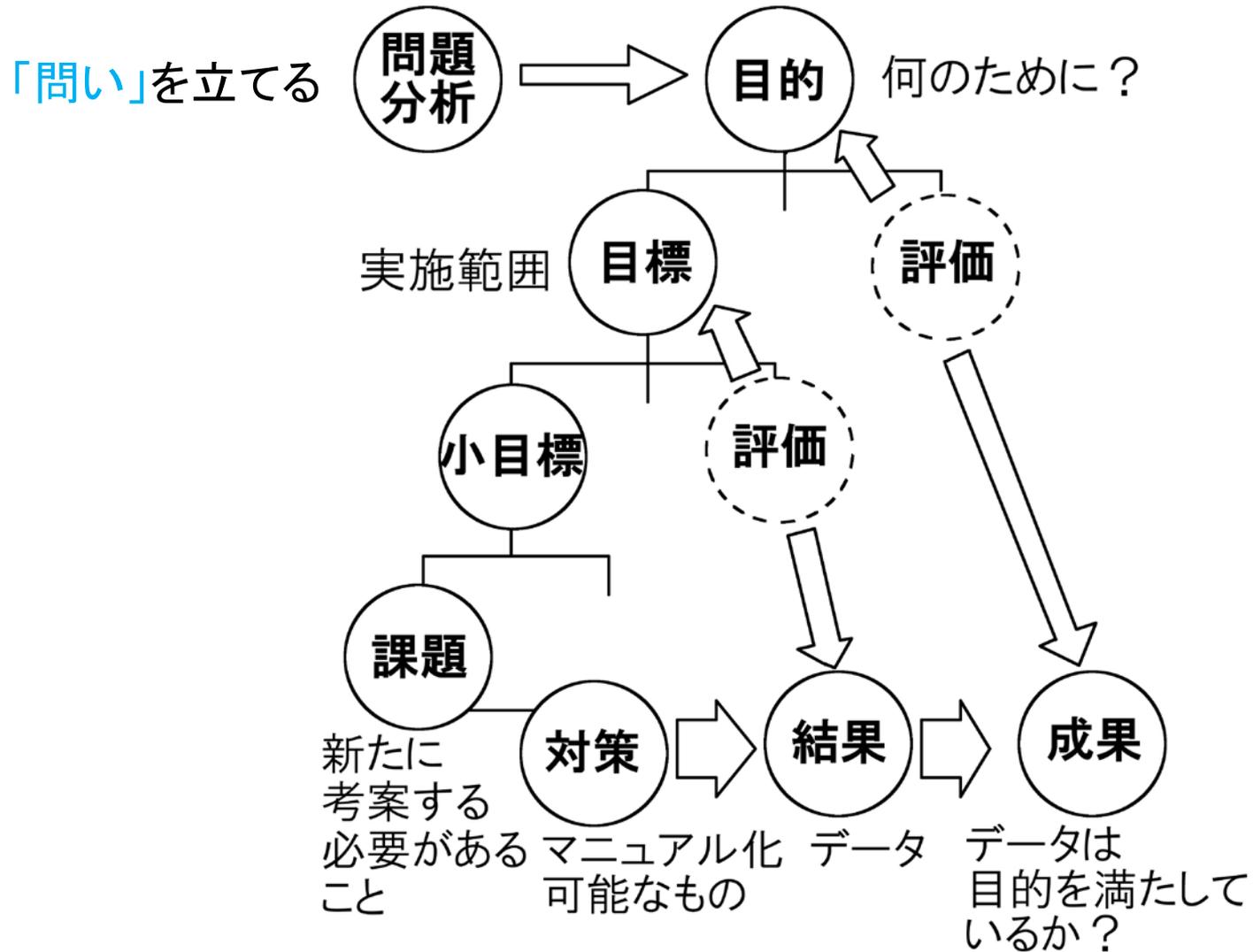
# 文章の構造化

- 少なくとも ①レポート全体, ②段落, ③単文 の3レベルの構造化
- 「物語調」は厳禁！  
実施したことを起こった順に並べても論理的にはならない。



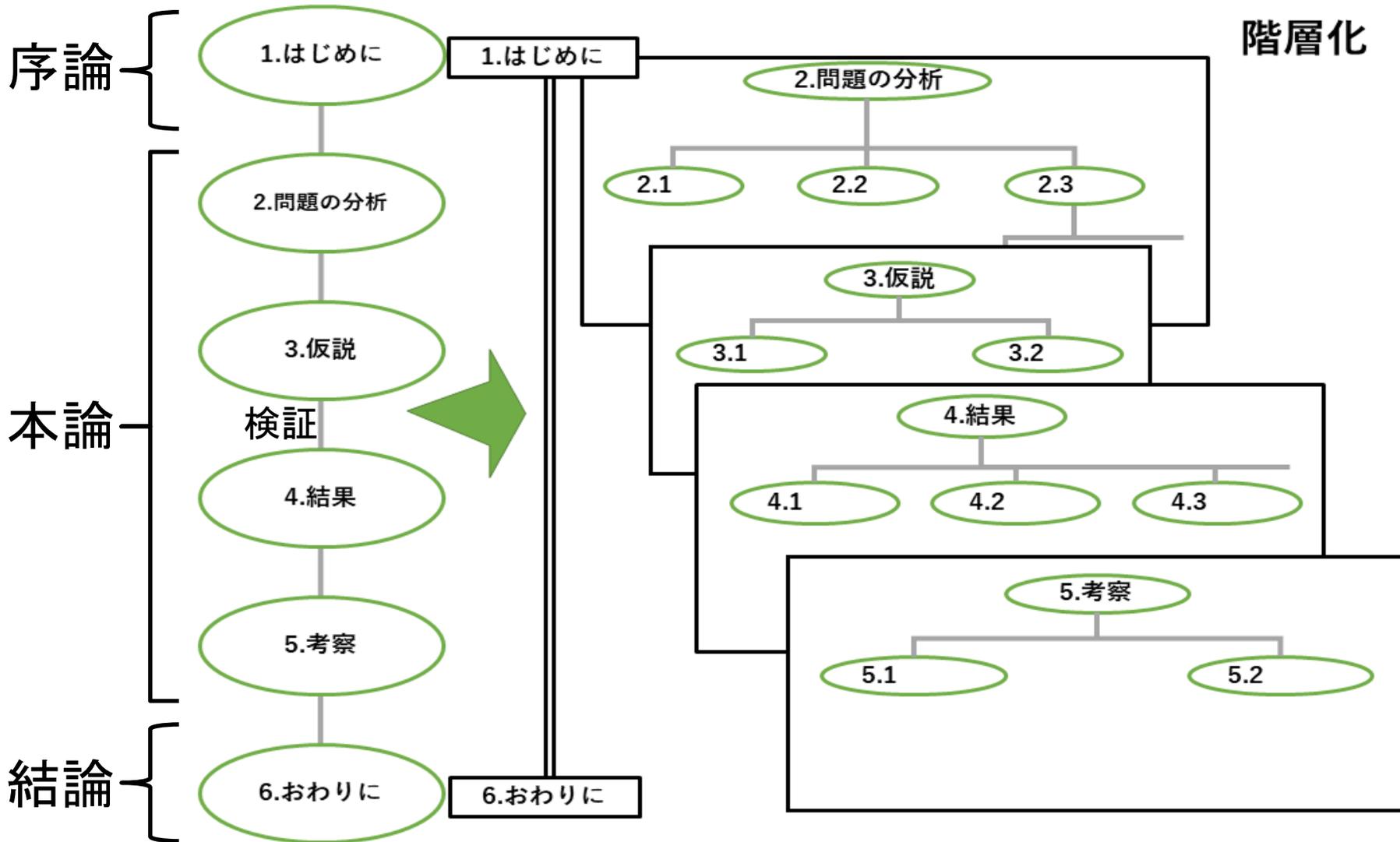
構造の「型」が、  
書き手と読み手の間  
で共有されていれば、  
理解されやすい。

# 文章構造の「型」の例



# レポート全体は「階層的」に構造化する(階層化)

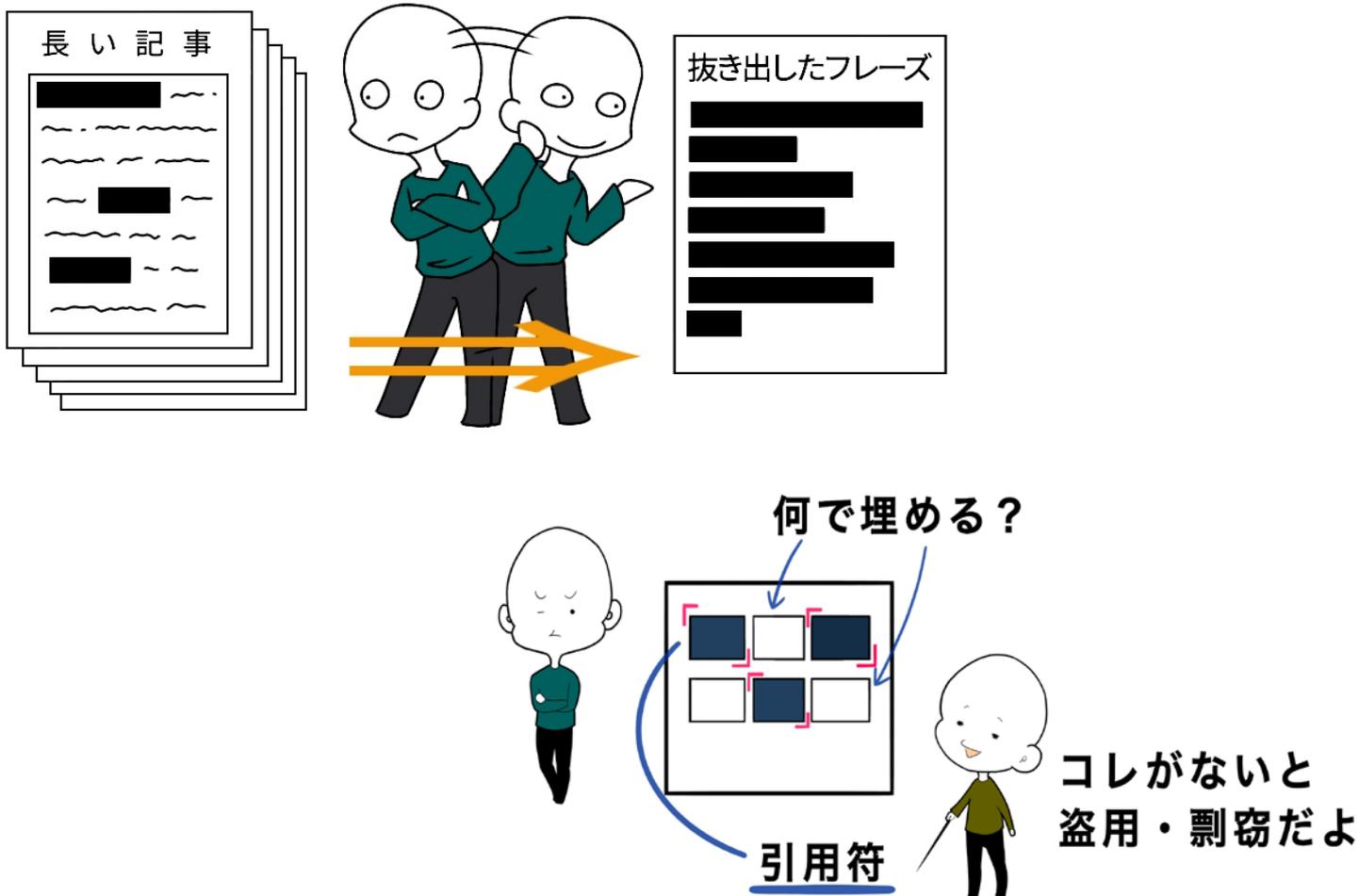
同じ種類の内容は一カ所にまとめる。



## 演習2: 文章の要約

原文中のフレーズを引用(≡そのまま使用)して疑似的に要約できること。

注) 引用=要約ではない。気を付けないと剽窃とみなされる。



## 演習2 文章の要約（15分間）

【要約のやり方】 要約には, abstract, summary, digest 等がある

パターン1: 原文のキーフレーズを抜き出して整理する

パターン2: 原文の大意を読み取って自分自身の言葉で書く

配布資料 [別紙2] 「社説 医療改革 とても安心できない」参照

(朝日新聞(2006.6.19))

演習のルール:

- ・文中に傍線が引いてあるフレーズを, p.7に示した「文章構造の『型』の例」に従って階層的に構造化する.
- ・構造化したフレーズに最小限の修飾をして文章としての体裁を整える. 引用符を忘れないよう注意する.

ヒント:

原文は, 1099文字

再構造化して要約すれば, 200文字前後

# 演習2 文章の要約

## とても安心できな

### 医療改革

① 少子高齢化が進んでも、安心④  
 して病院にかかれるようにしよ  
 う。そんなうたい文句で、医療  
 制度改革が成立した。  
 しかし、医療の置かれた状況  
 を見渡せば、本心に安心できる  
 制度になるからとなく。  
 改革の柱は、お年寄りのことも負担し  
 てもらおうというものだ。窓口での支払  
 いが増える。④ 7歳以上の長期入院患者の  
 食費や光熱費も自己負担になる。いずれ  
 も厳しい内容だ。  
 高齢者の医療費の多くは現役世代が担  
 っている。世代間の負担をバラツキのと  
 れたものにするには、お年寄りの持ち出  
 しがある程度増えるのはもよほさな  
 る。

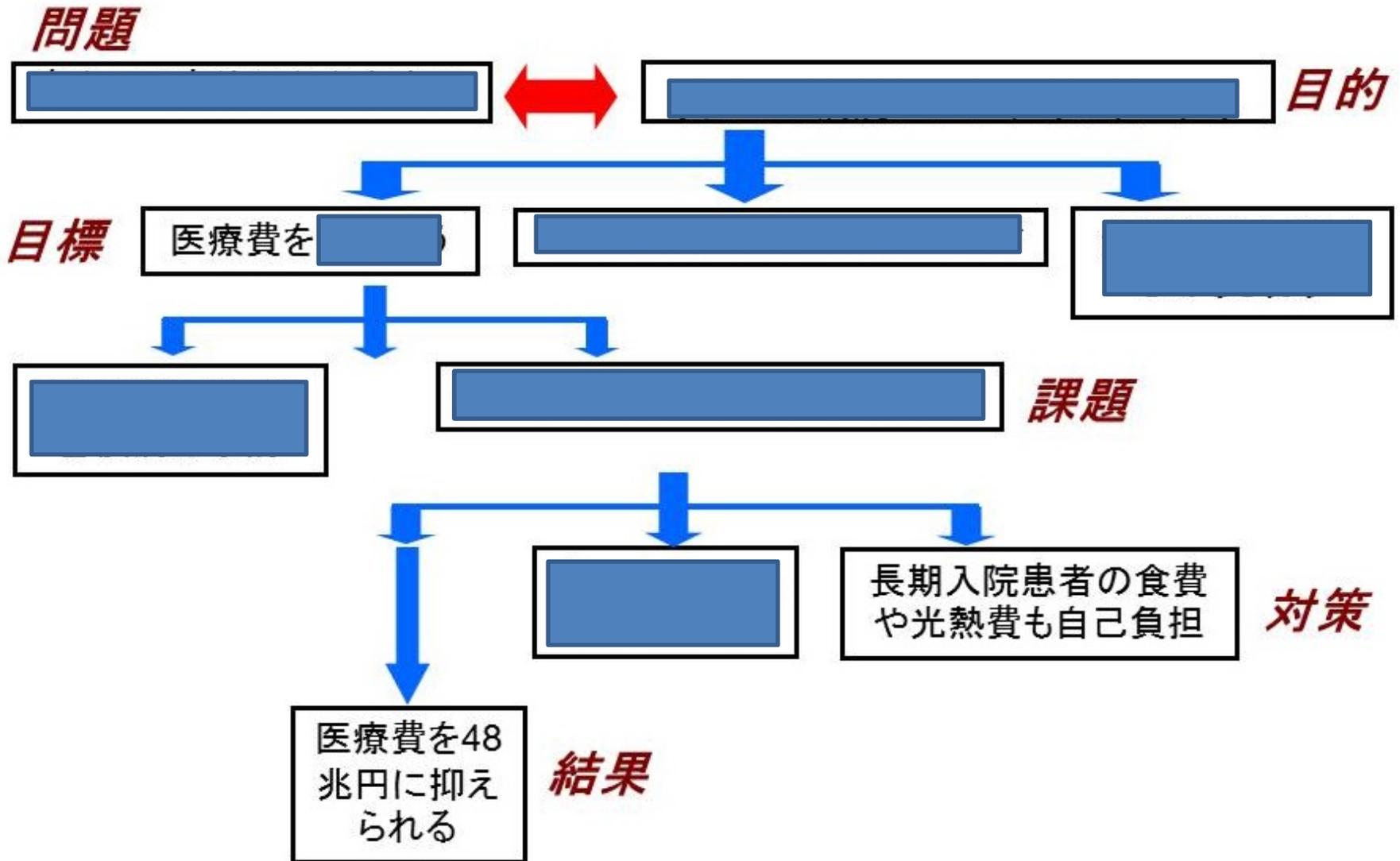
別だ。実施にあたって厚生労働省は現場  
 の実情に目をこらし、所得の低い人ほ  
 きめ細かく対策を取る必要がある。  
 また改革には、病状の安定しているお  
 年寄りが入院している療養病床を6割削  
 減することも盛り込まれた。治療の必要  
 が少ない人は、老人保健施設や有料老人  
 ホームなど介護保険のサービスを利用し  
 てもらおうという狙いだ。

⑤ 減らすことも盛り込まれた。治療の必要  
 が少ない人は、老人保健施設や有料老人  
 ホームなど介護保険のサービスを利用し  
 てもらおうという狙いだ。  
 「社会的入院」を解消するために病床  
 を減らすのは避けて通れない。しかし、  
 受け皿を用意しないまま療養病床を減ら  
 せば、「介護難民」が生じかねない。  
 ⑦ 厚労省は6年がかりで移行させる計画  
 だ。お年寄りの中には家庭で面倒をみる  
 ことができず、やむをえず入院している  
 人も多い。不安が広がるようなことがあ  
 りはならぬ。  
 「医療崩壊」といってもいい医師不足  
 はなぜ起きているのか。単に医師が都会  
 心になって新たに医療費の抑制計画をつ  
 くることだ。糖尿病などの生活習慣病の  
 予防や入院期間の短縮を盛り込んで、医  
 療費を抑えようというのだ。

⑧ 高齢者の負担から県の抑制計画まで一  
 連の改革を進めれば、25年には56兆円に  
 なる医療費を48兆円に抑えられると試算  
 されている。この改革が順調に進むとど  
 うかは、県が力まを握っている。  
 県は病院の配置などに責任を持つてい  
 る。政府管掌健康保険や市町村の国民健  
 康保険も、県単位の再編がこれから進ん  
 でいく。県はこれまでに以上に向きに取  
 り組んでいかなければならぬ。  
 これまで財政的なじつまがあったとし  
 ても、昨今の医師不足の広がりを目の当  
 たりにすれば、とても安心できるとは言  
 えない。  
 島根の隠岐の島では、病院から常勤の  
 産婦人科医がいなくなり、地元での出産  
 が難しくなった。東京から1時間の千葉  
 県の地方都市では中核病院の内科医がみ  
 んな辞めてしまった。

⑨ 本心に安心できる医療にするため、厚  
 労省は早急に実態を調べ、医師不足を解  
 消する改革案をまとまなければならぬ。

# 社説中のフレーズの構造化



質問などあれば、下記までお気軽にお問い合わせください。

**教育センター 桐山 聡**

**Mail: kiriyama@tottori-u.ac.jp**

**附属図書館 学術情報係**

**Mail: ac-gakuju@adm.tottori-u.ac.jp**

**Tel: 0857-31-5673**